



ペテロ

2017年10月1日発行
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13
TEL 099-268-2084
FAX 099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/>

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

共有する未来を大切に

◆先月 17 日から 26 日までバチカンから福音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿が来日されました。福岡、長崎、広島を訪問され「福音はどうして伝えられねばならないのか」と問うて回られました。教皇フランシスコ様の次の言葉を伝えました。「福音宣教熱とそのあかしは司牧活動や人々への宣教においても助けとなります。・・・聖霊は教会の中の男女を目覚めさせ・・・自らが生活している社会を豊かなものにする」。信徒たちによる福音宣教活動は教会にとって宝です。被造物をより大切なものへと転換させる力を持っているからです。信徒には固有のカリスマがあって、社会という世俗にあってなお生き続けています。信徒の固有の霊性を理解すれば、司牧宣教活動はさらに豊かになるのです。

◆「被造物を大切にすること」のために勧められること、それは私たちがまずもって変わることです。神の被造物全般には「共通の起源」というものがあります。それは互いに属し合っているということです。平たく言えば、共存・共生の関係にあるということです。相互に反発し合って、どうして秩序が保たれるのでしょうか。互いに共有する未来に平和と幸福をもたらすものは一体何ですか。被造物を大切にすることではないのでしょうか。被造物はもはや自分自身のためだけではない。自分が変わらなければ、この世界を守ることなどできないのは明白な事実です。

◆それでは、どのようにして「新しいライフスタイル」を築けるのでしょうか。そのためには何を私

たちは為すべきでしょうか。金があるからと言って、無駄に物を買いつける消費主義に巻き込まれてはいませんか。合理的な製品や常識的な規格に踊らされて、まんまと消費主義の渦中に浸りきっていませんか。もしかしたら既に私たちは習慣的な生活スタイルに埋没しているかもしれません。今こそ、私たちは自身に問い返すべきでしょう。私たちの生活は本当にこのままで良いのかと。枢機卿が問うたように「福音はどうして伝えられるべきなのか」。もう一度問い返しましょう。消費する喜びが、いつしか、あなたの目を眩ませたかもしれません。現代世界は、余りに多い選択肢のゆえに、神の福音に至らせる道を見失わせたのです。



◆こうして自己中心的になってしまった人の目は完全に塞がれ、自己完結型の人間となり果てました。彼らは購買と所有という自虐的な欲望渦巻く中に、ただただ空虚な心を満たすだけの人間と化したのです。このような破局的な結

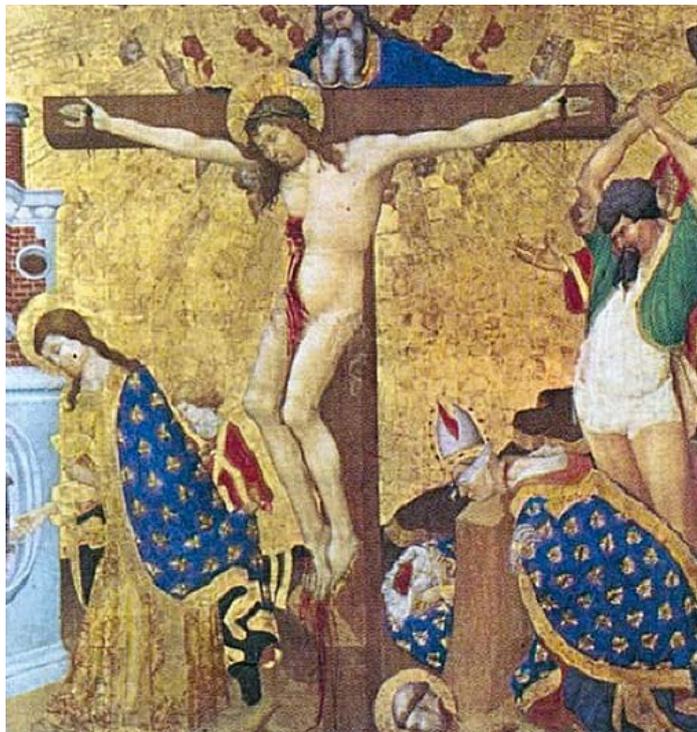
末に陥らないために、いち早く新しいライフスタイルに乗り換えることです。自己中心的なライフスタイルから利他的なライフスタイルへの転換です。聖霊はそのために教会の内外で働き、福音という風を新しく吹かせ続けます。その息吹きに触れ、新しい命に生まれ変わった信徒たちがいます。フィローニ枢機卿様はそのことを伝えるために日本に来てくださったのです。自我という欲を乗り越えて立ち上がり、教会とその福音のために善なるものを選び取り、素直に自分自身を見つめ直し、真の自由に向かってその一步を記し始めましょう。

主任司祭 頭島 光 神父

今月の聖人から

パリのディオニジオ司教殉教者

10月9日



フランスの保護の聖人の一人、聖ディオニジオはイタリア人で、250年頃6人の宣教師と共にパリへ派遣された。その中には、大胆なエレウテリオとルスティコもいた。宣教師たちの非常な努力によって、多数の市民が改宗した。これを見たローマ総督フェスチェンニヌスは三人を捕らえて牢獄に入れた。彼らは長い間牢獄の中で過酷な生活に苦しめられたが、275年頃、首を切られその遺体はセーヌ川に投げ込まれた。

モンマルトルの「殉教者の丘」はこの3人の殉教した場所を示している。彼らを記念して建てられたサン・ドニの修道院の教会堂は、575年、聖ジェネヴィエーヴによって再建され、この聖人たちを記念するため小修道院を附設した。

ダゴベルト1世王はこの教会を改築して、自分の墓をそこに置くように計画した。750年に、

サン・ドニのフルアド修道院長は教会の再築を決定し、25年後その祝別式にはカール大帝が列席した。1122年有名なスジェールが修道院長になった時、大きな修道院の教会堂が建てられ、その建物は今日まで残っている。

Taniyama CC NEWS

9月24日

Q-旅する混成合唱団の熊本地震復興支援チャリティーコンサートが行われました。鹿児島公演(続いて、福岡、熊本で行われる予定)では、当教会の聖堂が会場となり、曾木時人さん指揮のもと鹿児島メサイヤ合唱団が歌声を響かせました。

予告

10月8日、大分のカテドラル(カトリック大分教会)での第27主日のミサ中で、聖アルフォンソ合唱団がモーツァルトのミサ曲、KV220「雀のミサ」を合唱奉獻致します。ミサが素晴らしいものとなりますようお祈り下さい。

Q-旅する混声合唱団
～熊本地震復興支援
チャリティーコンサート～

鹿児島公演
平成28年9月24日(土)
宮田カトリック教会
開演時間:午後7時30分～9時15分
14:30開演 15:00開演

福岡公演
平成28年11月12日(日)
大牟田市立総合市民会館
「大牟田市」3F 大牟田市ホール
開演時間:午後7時30分
13:30開演 14:30開演

熊本公演
平成28年11月10日(土)
志願文化会館
熊本県上水原町4丁目1-10
17:30開演 19:00開演

♪入場料
¥800(全席自由)※ 高校生以下無料
(小学生は学生証提示または制服着用で確認いたします)

♪出演
Qおよび九州各地の合唱団(熊本参団)

♪指揮者
曾木時人

♪作曲
アカペラによる二つの熊本真辰謡より
五木の守守明/香松正司 編曲
巖/北川晋
《合同演奏》
ほらね、ノまつたこう 他

なお、本会は、公益の増進に必要と認められた金額を熊本県に寄付いたします。
お問い合わせ:020-3393-0812(平日) 熊本会館:090-7443-8482(18時～) 熊本会館:1604-5645-5474(24時)